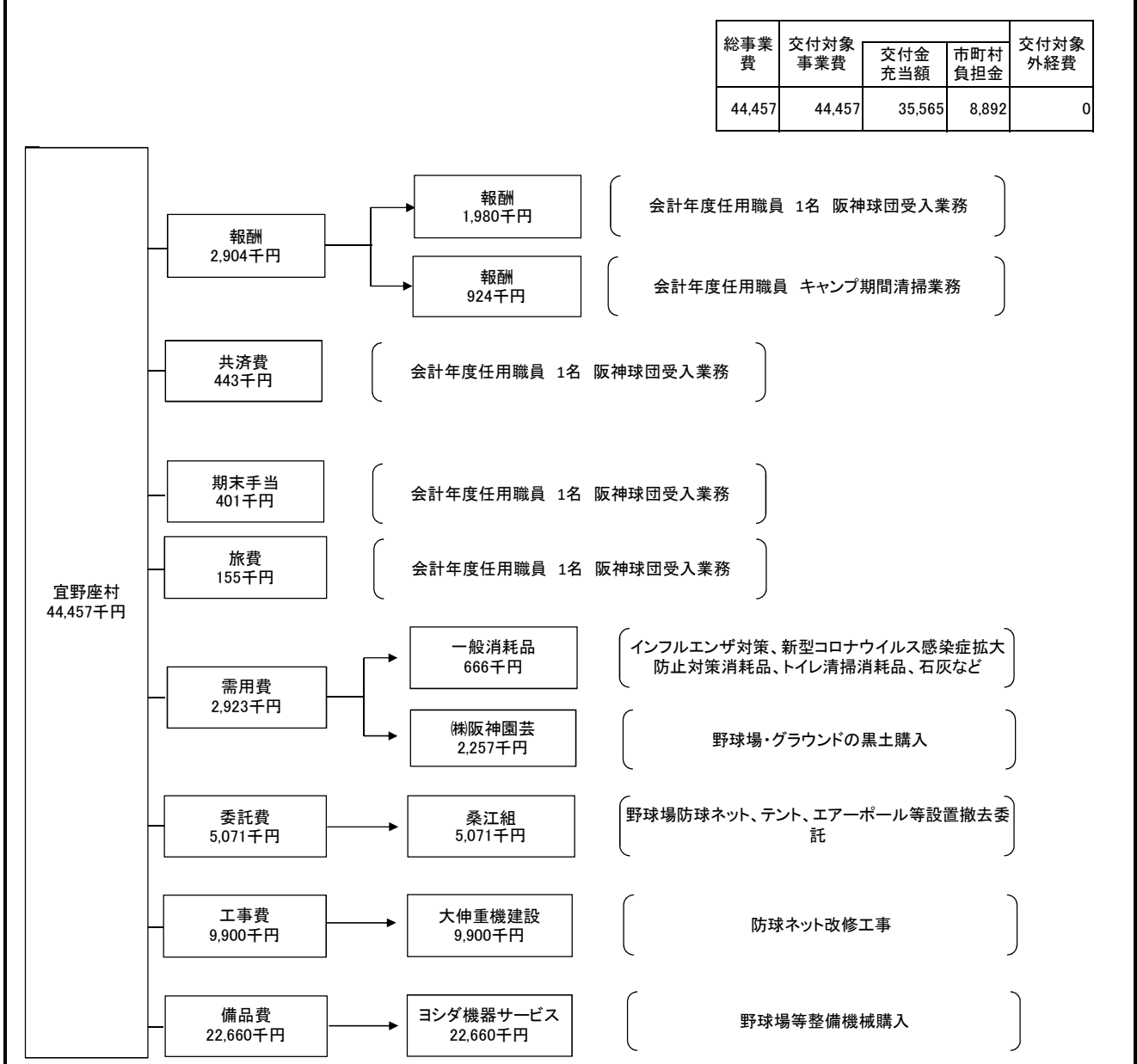


市町村名		宜野座村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	阪神タイガース春季キャンプ受入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-Ⅲ-(2)-ウ	
担当部署名	観光商工課	事業実施(予定)年度	令和4年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	阪神タイガース春季キャンプは多くの観光客が本村を訪れる重要な観光資源となっているため、常設防球ネットの改修や仮設の防球ネット及びテントの設置、野球場とサブグラウンドの黒土の搬入を行うなどプロ野球キャンプの受入体制を強化することで、さらなる観光誘客を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a) 当初予算額	9,783	9,588	12,639	51,370	50,525	
	(b) 予算現額	9,783	9,588	12,639	51,370	50,525	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	9,783	9,588	12,639	51,370	50,525	
	B. 執行済額	9,272	9,410	12,571	50,297	44,457	
	うち交付金充当額	7,417	7,527	10,056	40,237	35,565	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	94.8%	98.1%	99.5%	97.9%	88.0%	
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施したので適正であったと考えている。不用額については委託費や備品購入費の入札残や人件費の残などによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	阪神春季キャンプの受入体制の構築 ・野球場防球ネット、エアアーチ、テント等設置	目標	(仮設フルベン防球ネット エアアーチ パワーテント等設置)	(防球ネット エアアーチ テント等設置)	(防球ネット エアアーチ テント等設置)	(防球ネット エアアーチ テント等設置)	
		実績	設置完了	設置完了	設置完了	設置完了	
	野球場、総合グラウンド黒土搬入	目標	(野球場、総合グラウンド黒土搬入)	(野球場、総合グラウンド黒土搬入)	(野球場、総合グラウンド黒土搬入)	(野球場、総合グラウンド黒土搬入)	
		実績	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	
	キャンプ会場の衛生管理	目標	(衛生管理)	(衛生管理)	(衛生管理)	(衛生管理)	
		実績	衛生管理実施	衛生管理実施	衛生管理実施	衛生管理実施	
	阪神タイガース春季キャンプ会場改善工事	目標	()	()	(野球場フェンス 野球場トイレ 改善工事)	(野球場防球ネット改善工事)	
		実績			改善完了	改善完了	
阪神タイガース春季キャンプ会備品購入	目標	()	()	()	(機械購入)		
	実績				改善完了		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 選手及び見学者が安全・快適に練習・見学ができるよう、防球ネット、歓迎エアポール、歓迎のぼり、テント等を設置したほか、清掃員や警備スタッフ等を配置し、球場内外の整備を行った。 阪神タイガースの合同自主トレ、春季キャンプの環境整備を図る為、野球場・総合グラウンドの黒土入れ替えを実施した。 選手が安心してキャンプに取り組めるよう、衛生品準備やインフルエンザ・新型コロナウイルス感染症対策も実施したほか、キャンプ期間中だけでなく、年間を通し調整を行い、球団との関係を築いた。 効率よくグラウンド整備等を行うために、機械を購入した。 野球場敷地外にファールボールが飛び出ないように、防球ネットの改善工事を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	阪神春季キャンプ見学者数(人)	目標	()	(87,000人)	(43,000人)	(43,000人)	()
		実績			0人	8,900人	59,800人
進捗状況説明	新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を実施しながらの阪神キャンプの開催となった。全国的な行動制限や沖縄県独自の蔓延防止重点措置の発令はなく、人数制限なしでの有観客開催となったことから、見学者数の実績は目標値を達成することができた。当初から有観客での開催を想定していたため、感染症拡防止対策を取りながらの受入体制を構築していた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・新型コロナウイルス感染症による行動制限や入場制限等はなかったものの、未だに旅行者数は完全には回復しておらず、入場者数もコロナ禍以前の水準には戻っていない。また、感染症対策で選手とファンの接触を避けるために、一般来場者の立入制限区域をコロナ禍以前よりも多く設けたことによる会場レイアウトの変更により、来場者や出店者からの改善要求等も見受けられた。</p>	<p>・感染症対策を行いながらの選手とファンの接触を避けての受入体制を構築はできたが、感染症対策を行いつつファンサービスを実施するなどの観客の求める受け入れ体制の構築を検討する。</p> <p>・野球場等の黒土入れ替え、選手・ファンの動線管理、球場内外の警備や誘導員の配置、臨時駐車場の設置、シャトルバス運行を実施し、安全・快適なキャンプ場整備に努める。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・新型コロナウイルス感染症の影響は収束に向かっているが、今後も感染症対策として手洗いの徹底を呼びかけるほか、必要に応じてトイレや観客席、練習見学場所、手洗い場等に消毒用アルコールを設置する。また、感染症対策を取るよう注意喚起も実施しながら、事前に球団と調整し、安心安全にサイン会やファンサービス等が再開できるよう対策を検討する。また、球団側にも来場者がよりキャンプを楽しめるよう、会場レイアウトの変更等を求めていく。</p> <p>・今後もキャンプ地利用を継続してもらうため、球場周辺施設整備や選手及びファンが安心安全・快適に利用できるよう受入体制を構築するほか、球団や村観光協会、村商工会と通年で連携を取り、村全体でキャンプ地として盛り上げるよう取り組む。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>・予算規模については、見積りを徴取して積算しており、適正な規模であった。</p> <p>・費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村
------	------

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	宜野座村文化のまちづくり魅力発見事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-イ
担当部署名	観光工商課	事業実施(予定)年度	平成24~令和4年度	文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(3)

事業内容 村民が質の高い芸術公演に触れる機会の確保及び、村外からの誘客を図るため、宜野座村文化センターがらまんホールを中心に芸能文化・伝統芸能公演等を実施する。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	65,000	30,000	29,988	29,988	24,970
	(b) 予算現額	65,000	29,934	25,188	29,988	24,970
	(c) 増減額(b-a)	0	▲66	▲4,800	0	0
	(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	65,000	29,934	25,188	29,988	24,970
	B. 執行済額	65,000	29,934	25,173	29,978	24,970
	うち交付金充当額	52,000	23,947	20,138	23,982	19,976
	次年度繰越額	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明	計画していた事業内容はほとんど実施できたため適正であったと考える。				

活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況			
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	(がらまんホール公演) 「伝統芸能」「音楽コンサート」「創作演劇」「ワークショップ」など様々な芸術文化・伝統芸能公演を開催する。(11回以上)	目標 (17回)	(7回)	(14回)	(11回)
	実績	18回	7回	14回	13回
	(お出かけ公演) 教育施設、福祉施設、観光施設等で文化事業を行い、文化芸術を通して交流できる芸術普及及び活動を行う。(3回以上)	(11回)	(6回)	(4回)	(3回)
	実績	17回	3回	4回	7回
	(事業アーカイブ及び映像制作配信) 過去に開催した事業の写真や映像等の動画配信を行う(3項目)	目標 (-)	(-)	(4項目)	(3項目)
	実績	-	-	4項目	5項目
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・がらまんホール公演については、坂本美雨 birds fly Concert in Okinawa、がらまん沖縄芝居公演、現代芸能「獅子と仁人」など、計13回の芸術文化・伝統芸能公演を実施した。 ・お出かけ公演については、内子町交流伝統芸能公演、Vtuberメイキングお出かけワークショップ、お出かけ演劇「まぶい恋唄」鑑賞会など、計7回の活動を実施した。 ・事業アーカイブ及び映像制作配信については、文化講座(2)、映像作品(2)、特別ホームページ維持管理(1)の計5項目を実施した。 ・全ての活動目標(指標)を達成することができた。 				

成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
			()	()	()	()
①芸術文化・伝統芸能公演の集客数	目標	()	(1,038人)	(2,646人)	(2,778人)	()
	実績		1,745人	925人	3,738人	
②お出かけ公演対象者数	目標	()	(2,625人)	(2,756人)	(2,893人)	()
	実績		583人	329人	6,575人	

進捗状況説明 ①芸術文化・伝統芸能公演については、MADAMEシリーズコンサートやがらまん沖縄芝居公演に多くの来場者が訪れたことにより、目標数値を上回った。
②お出かけ公演については、宜野座村まつりに想定よりも多くの来場者が訪れたことにより、目標数値を大幅に上回る結果となった。

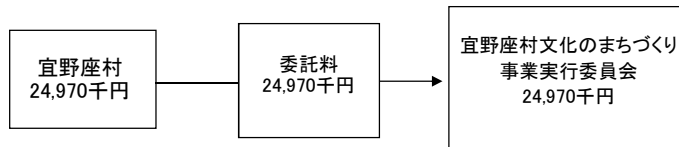
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①コロナウイルス収束したもののまだその影響があったが、感染症対策、コロナ対策をした事業企画を立案遂行することによって目標値達成となったと考えられる。</p> <p>②コロナ対策を施した大規模イベントが行えたことにより、目標数値を大きく上回ることができた。</p>	<p>①コロナ禍で減少した芸術文化に触れる機会の損失を補うべく、多様な演目や舞台を企画し、多くの人々に鑑賞する機会を提供する。</p> <p>②コロナの影響で訪問できなかった場所、対象者をコロナ収束と共に再訪問や再対象として設定し、より幅の広い層にアプローチをしていく。</p>

今後の取り組み方針

- ①コロナ禍の中で培った映像や配信などの技術を応用し、劇場とメディアによる相互効果で鑑賞者及び鑑賞機会の増大を図る。
- ②お出かけ公演とともに、新たな取り組みとして実施した動画コンテンツや動画配信サイトYoutubeを活用し、村内外多くの人に文化芸術を届け、宜野座村の魅力や文化振興、誘客等に寄与する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
24,970	24,970	19,976	4,994	0



資金の流 点検・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は村内各種委員で構成する委員会地域とつながりが非常に強く、円滑な事業運営が望める為、随意契約しており選定は妥当であったと考えている。</p> <p>○事業額を内容通り遂行したため、適正な規模であった。</p> <p>○用途について額の確定時(完了検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-③ 宜野座村着地型観光誘客推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章-3-(2)-ウ			
	担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の整備	
						Ⅲ-1-(1)		
事業内容	宜野座村への観光誘客を図り、着地型観光を推進するため、観光誘客プロモーション活動や年間を通じたイベントの開催、観光関連人材の育成等を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	49,759	49,650	73,372	66,285	66,867	
		(b) 予算現額	48,387	47,834	71,736	65,328	65,420	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,372	▲ 1,816	▲ 1,636	▲ 957	▲ 1,447	
		(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)		48,387	47,834	71,736	65,328	65,420	
	B. 執行済額		48,387	47,834	71,736	56,924	65,417	
	うち交付金充当額		38,710	38,267	57,388	45,538	52,334	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	87.1%	100.0%	
予算の状況の説明		コロナ禍の影響により、人材育成事業が当初予定していた回数を下回ったこと、当初予定していた雇用者に変更があり、給与等に差額が生じたことで1,448千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	観光誘客プロモーション活動の実施(関西地域、関東地域、沖縄県内、団体誘致等)	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
		実績	実施	実施	実施なし	実施		
	・観光プログラムの開発事業の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
		実績	実施	実施	実施	実施		
	・観光人材育成事業の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
		実績	実施	実施なし	実施	実施		
	年間を通じたイベントの開催(3回)(村内)	目標	(3回)	(3回)	(3回)	(3回)		
		実績	3回	3回	3回	3回		
外部専門家(アドバイザー)招聘によるSNSなどの活用による情報発信の検証と発信技術の向上を図る。	目標	(外部専門家事業)	(外部専門家事業)	(外部専門家事業)	(外部専門家事業)			
	実績	情報発信力強化に向けた取り組みを実施	情報発信力強化に向けた取り組みを実施	情報発信力強化に向けた取り組みを実施	情報発信力強化に向けた取り組みを実施			
達成状況説明	観光誘客プロモーション活動については、感染症対策を取りつつ、出来る範囲で全て実施をした。その他にも都内での広告宣伝や甲子園球場内へ広告掲載を行うプロモーションも併せて実施した。 イベント等については、村内を周遊できる仕組みを作りつつ、沖縄県のガイドラインに沿った形で対策を行い実施した。 外部専門家事業については、発信力の助言を継続しつつ、新たに着地型の商品造成に着手しながらモニターツアーを実施した。 コロナ禍の影響のある中、すべての事業を実施することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
			目標	()	(25万人)	(12万人)	(12.1万人)	()
	宜野座村の観光入客数(12.1万人)		実績		14.5万人	13.7万人	20万人	
進捗状況説明	今年度は、コロナ禍の影響もある中、ほぼ計画通りの事業を行うことができた。新たにデジタルスタンプ機能を構築させ、幅広いプロモーションの展開や周遊イベントでの活用を実施。 観光入客数に関しては、20万人とコロナ禍の目標を達成することができ、コロナ禍以前の水準に戻りつつある。							

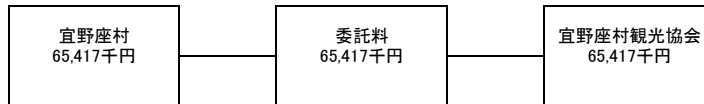
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>今年度は全ての事業を実施することができ、プロモーション活動では新たな取り組みであるデジタルスタンプラリーでのPR周遊の展開が、本村に訪れる観光客が増えた要因の一つであると考えられる。</p> <p>人材育成事業については、コロナ禍の影響を受け実施回数が若干予定を下回ったが、8割は行うことができたので達成したと考えられる。</p>	<p>プロモーション会場の選定についてのブラッシュアップやテーマ車のプロモーションイベントに参加し、地域の強みが更に引き立てられるプロモーションの検討。その他にもYouTubeチャンネルを有効活用したプロモーションや「行きたい・来たい」と思えるGINOZAブランドの更なる構築を目指す。</p>

今後の取り組み方針

今後も有効的にプロモーションを計画・実施しながら、埋もれている観光資源の発掘を行い、地域観光地づくりを目指す。また、これまで企画作成してきた、滞り型観光プログラム(オプションツアー)を自走し、新たな魅力の発信・受入を目指す。その為にも地域観光従事者と更に連携や資質向上研修を行いながら持続可能な観光地づくりに努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
65,417	65,417	52,334	13,083	0



- ・観光誘客プロモーション事業
- ・観光プログラム開発実施事業
- ・観光人材育成事業
- ・イベント事業
- ・外部専門家活動事業

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者の選定は、本村に特化した観光振興を担う唯一の事業所であることから随意契約にて契約しており、その選定は妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・事業額について、当初の目的に沿って遂行したため、適正な規模であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・使途については、事業目的達成の観点から内容を確認し、適切であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-④	宜野座村美ら島花火大会事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ
担当部署名	観光工商課	事業実施(予定)年度	平成28～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光産業の振興	
事業内容	スポーツが盛んな秋の行楽シーズンに、プロ野球阪神タイガースのキャンプ施設等のある農村公園を中心とした場所で大花火大会を開催し、宜野座村の魅力を発信することにより観光誘客を図る。					
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)					
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	(a) 当初予算額	6,504	6,504	0	7,228	7,787
	(b) 予算現額	6,504	6,504	0	7,228	7,787
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	6,504	6,504	0	7,228	7,787
	B. 執行済額	6,130	6,370	0	6,459	7,020
	うち交付金充当額	4,904	5,095	0	5,167	5,616
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	94.2%	97.9%	#DIV/0!	89.4%	90.2%
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容を実施したので適正であったと考えている。不用額の767千円については、入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況			
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	花火の打上	目標	(実施)	(-)	(実施)	(実施)
		実績	実施(1,000発)	-	実施(750発)	実施(1,050発)
	会場設営	目標	(実施)	-	-	(実施)
		実績	実施	-	-	実施
	ステージイベント(伝統芸能等)	目標	(実施)	-	-	(実施)
		実績	実施(15団体)	-	-	実施(15団体)
	PRチラシの作成	目標	(作成)	-	-	(作成)
		実績	作成(37,500枚)	-	-	作成(40,000枚)
警備員の配置	目標	(配置)	(-)	(配置)	(配置)	
	実績	配置(10名)	-	配置(16名)	配置(10名)	
達成状況説明	チラシでの周知や約1,000発の花火を打ち上げることで、目標値の来場者数を達成することに繋がった。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度
	美ら島花火大会集客数(8,540人/2日間)	目標	()	(-)	(11,200人)	(8,540人)
		実績		-	562人	14,000人
進捗状況説明	令和4年の10月は、未だコロナ禍であったため、新しい生活様式を踏まえた感染対策を講じてのイベント開催となった。2日間とも大雨の悪天候で客足の不安はあったものの、目標値を超える来場があり、3年ぶりの開催を待ち望んでいた様子が伺えた。					

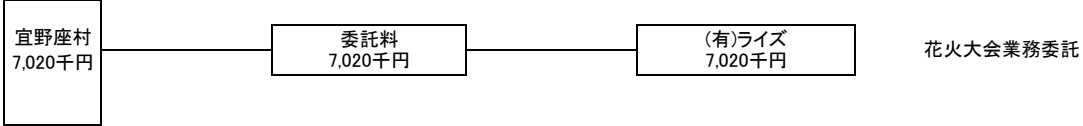
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>コロナ禍のイベント開催となったため、感染対策のガイドラインを遵守し、入場の際に検温やマスク・リストバンド着用等、スタッフの負担も多くなった。 駐車場を複数箇所設けていたが、違法駐車があったため、来場者から車が出せずに帰れない等の苦情も数件寄せられた。</p>	<p>国の方針により令和5年3月より、マスク着用の判断が個人の自由となったことから、感染対策への配慮が徐々に緩和され、コロナ前の状態に戻ることが考えられる。 駐車場の課題については、警備員を増員し再発防止を図る。</p>

今後の取り組み方針

県内外における先進的なイベントや祭りの事例や情報を随時取り入れながら、宜野座村まつり実行委員会と連携して、観光誘客及び村の魅力発信ができるよう開催方法を検討していく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,020	7,020	5,616	1,404	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札により決定したため、妥当であった。 ○事業費は仕様書通り遂行したため、適正な規模だった。 ○用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について金額の確定時(検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	農村沿道景観向上事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア	
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	令和元年度～令和12年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進		
事業内容	魅力的な自然環境観光地を形成するため、リゾート観光客の散策路(農道)の美化に努める。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	(a) 当初予算額	2,974	5,222	5,222	5,222		
	(b) 予算現額	2,974	5,222	5,222	5,222		
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	0	0	0			
	A. 計(b+d)	2,974	5,222	5,222	5,222	0	
	B. 執行済額	2,974	5,222	5,222	5,222		
	うち交付金充当額	2,379	4,177	4,177	4,177		
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	#DIV/0!	
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容は予定通り実施しており、適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	美化作業員配置3名	目標	(2名)	(3名)	(3名)	(3名)	
		実績	2名	3名	3名	3名	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	委託先である土地改良区が作業員3名を配置し、年間を通じて散策コース5ルートの草刈り及び伐採作業を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
		目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
	実績		80%	82%	81%		
進捗状況説明	本事業開始前に年間10件ほど寄せられていた苦情が、令和4年度を含めて事業開始後4年間0件であったことから効果があったと考えられる。また、アンケートにおいては、令和2年度に引き続きコロナ渦が継続している中ではあるがアンケートを実施した。結果、81%の方に沿道の景観が「とてもきれい」との評価をいただいた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> これまで宿泊施設周辺付近の農道・沿道においては雑草等が茂り景観が損なわれていたが、年間をとおして草刈り・伐採作業を実施することで観光地の景観形成が図られ、令和4年度も含めて事業開始後の苦情件数は0件であった。 令和4年度も令和3年度に引き続き、年度を通してコロナ渦という特殊な状況の中、観光客が激減しており成果を確認することが困難な状況となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設や観光施設におけるアンケート調査を継続して行う。但し、コロナの制限解除によって、本村への入域観光客数の増加が見込まれることから、より多くの意見を事業に反映できるよう獲得枚数の増を目指す。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 草刈による除草に加えて防草植物(クラピア)による事業効率化を図る。コロナの制限解除に向け、引き続き事業を実施していく。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	5,222	5,222	4,177	1,045	0
<pre> graph LR A[宜野座村 5,222千円] --> B[委託料 5,222千円] B --> C[宜野座村土地改良区 5,222千円] subgraph D [] direction TB D1[・農道・沿道散策路ルート管理] D2[・農道・沿道美化作業] end </pre>					

資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約先の「宜野座村土地改良区」は、本村の農道の維持管理団体であるため、本事業の目的を達成するために、委託事業者との随意契約は妥当であったと考える。 ・事業額について、当初の目的に沿って遂行したため、適正な規模であったと考える。 ・使途については、事業目的達成の観点から内容を確認し、適切であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	小学校学力向上対策事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア	
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける学校教育の充実		
事業内容	学力の向上を図るため、教師と連携をとりながら授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を小学校に配置し、児童の学力に応じた個々の学習指導を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a)当初予算額	15,360	15,399	25,089	28,780	28,780
		(b)予算現額	13,218	13,493	17,088	28,780	27,554
		(c)増減額(b-a)	▲2,142	▲1,906	▲8,001	0	▲1,226
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
	A.計(b+d)		13,218	13,493	17,088	28,780	27,554
	B.執行済額		13166	12304	14662	26466	25207
	うち交付金充当額		10533	9843	11729	21,172	20,165
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.6%	91.2%	85.8%	92.0%	91.5%
予算の状況の説明		当初定数8名の支援員配置を業務委託していたが、事業開始当時、2名採用できない時期等が生じ不用額がでた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	学習支援員配置数等 ・松田小学校 2名 ・宜野座小学校 4名 ・漢那小学校 2名	目標	(8名)	(8名)	松田小2名 宜野座小4名 漢那小2名	松田小2名 宜野座小4名 漢那小2名	
		実績	(8名)	(8名)	松田小2名 宜野座小4名 漢那小2名	松田小2名 宜野座小4名 漢那小2名	
	【参考指標】 支援児童数	目標	(520名)	(493名)	(495名)	(493名)	
		実績	511名	497名	509名	505名	
達成状況説明	当初は学習支援を定数の8名配置できなかったが、年度途中に8名配置し小学生と505名に対し教諭と連携をとりながら学習支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査において、平均正答率を県平均以上(差0ポイント以上)小学校5年、6年(算数)	目標	()	(県平均以上)	(県平均以上)	(県平均以上)	()
		実績		5年算数(-1.7) 6年算数(3.5)	5年算数(-4.2) 6年算数(-6.3)	5年算数(-17.4) 6年算数(-7.6)	
		目標	()				()
		実績					
	進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査の結果から、小学校5年生及び小学校6年生の算数において県平均を上回ることができず、目標は未達成となった。					

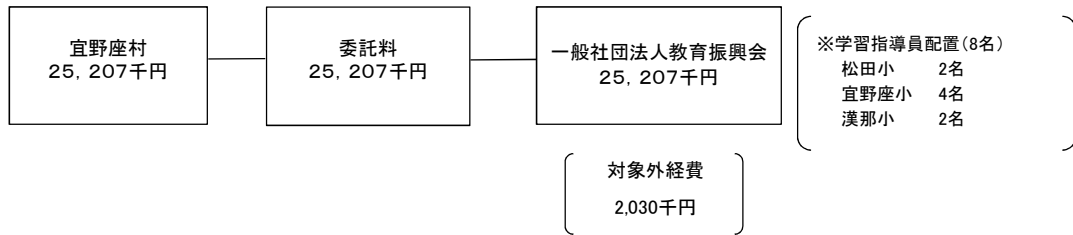
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で出席停止の生徒等に対し、対面による学習が困難な時期があった。その対策として、ICT機器を活用したオンライン授業を行ったが、対面による生徒に寄り添ったきめ細かな学習支援を行う機会が限られた状況が見られた。 登校再開時には、放課後の補習や長期休業中の講座を行い対応したが、結果的に、記述式の問題に無回答率が高く県平均を上回ることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県学力達成度調査結果の分析を行い課題等を把握し、補習授業や個別支援などを行い基礎的・基本的な学力の定着を図り学力向上に結び付ける。 放課後補習や長期休業中の学習支援の場を設けるなど学習支援を強化することで、学ぶ意欲を高め、学力の基礎・基本の定着を図る。 教師及び支援員の情報交換を密に行い、授業改善などに取り組む 漢字検定や数学検定など各種検定試験への取組を推奨し、学習意欲の向上や達成感につなげる。

今後の取り組み方針

- 引き続き、全体の支援内容の強化を図る必要がある。
- 放課後補習や長期休業中の学習支援を設けるなど強化することで、各学年で身につけるべき学習内容の基礎・基本事項を定着させるよう取り組む。
- 定期的に学習支援員に対する研修を行い、各学校における取組などを情報共有することで指導員のスキル向上を図る。
- 定期的に担当教師との情報交換を行い授業改善を図りながら個別指導や補習授業を通じて学力向上を図る。
- 漢字検定等の各種検定試験への資格取得を推奨し、学習意欲向上や達成感を醸成させ、学力向上に繋げる。
- 無回答率の高い問題の分析を行い、個々の課題把握に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
27,237	25,207	20,165	5,042	2,030



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者をプロポーザル方式により選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、人件費及び管理費等を考慮した結果、適正であると考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○生徒の学力向上を目的として支援員の配置しているため、目的に即し必要だと判断した。委託料の支払いについては、出勤簿等を確認の上行っている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 宜野座村

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (2-2), 中学校学力向上対策事業, 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第4章-5-(2)-ア), 担当部課名 (教育課), 事業実施(予定)年度 (平成24~令和13年度), 沖縄振興基本方針該当箇所 (III-3-(1))

事業内容 学力の向上を図るため、教師と連携をとりながら授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を中学校に配置し、生徒の学力に応じた個々の学習指導を行う。

効果発現年度 ■当年度 □後年度(年度)

実施方法 □直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()

Table with 7 columns: 予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース), H30年度, R1年度, R2年度, R3年度, R4年度. Rows include (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額(b-a), (d)繰越額, A.計(b+d), B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%)(B/A), and 予算の状況の説明.

Table with 5 columns: R4活動目標(指標), 達成状況 (R1年度, R2年度, R3年度, R4年度). Rows include 学習支援員配置数等 (宜野座中学校 5名) and 【参考指標】支援生徒数. Includes 達成状況説明.

Table with 7 columns: R4成果目標(指標), 基準値(年度), R2年度, R3年度, R4年度, 目標値(年度). Rows include 沖縄県学力到達度調査において、平均正答率を県平均以上(差0ポイント以上)・中学校2年生(国語、数学、英語) and 進捗状況説明.

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で出席停止の生徒等に対し、対面による学習が困難な時期があった。その対策として、ICT機器を活用したオンライン授業で行ったが、対面による生徒に寄り添ったきめ細かな学習支援を行う機会が限られた状況が見られた。 登校再開時には、放課後の補習や長期休業中の講座を行い対応したが、時間をかけて取り組む記述式の問題に無回答率が高く、結果的に県平均を上回ることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県学力到達度調査結果の分析を行い課題等を把握し、補習授業や個別の学習支援などを行い基礎学力の定着を図り学力向上に結び付ける。 学習内容の定着に落ち込みのある単元に対する学習支援を重点的に行う必要がある。 放課後補習や長期休業(サマースクール)の学習支援を強化することで、学ぶ意欲を高め、学力の基礎・基本の定着を図る。 教科担任と連携しながら、ICT機器を活用した個に応じた授業を行うなど生徒の学習意欲を高め、学力の向上を図る。 漢字検定や数学検定、英語検定など各種検定試験への取組を推奨し、放課後等の補習で試験対策を行い、合格率の向上や上級へのチャレンジなど意欲の向上や達成感につなげる。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、全体の支援内容の強化を図る必要がある。 学力到達度調査などの諸調査分析から定着状況を把握し、個別の指導や補習授業などで個に応じた指導方法を工夫するなどして学力向上を図る。 授業中の支援や放課後の補習などについては、課題を明確にし事前に支援計画を立て、放課後補習や長期休業の学習支援(サマースクール)を実施することで、学ぶ意欲を高め、学力の基礎・基本の理解とその定着を図る。 漢字検定等の各種検定試験への資格取得を推奨し、多様な学ぶ機会を通じ学習意欲向上や達成感を醸成させ、学力向上に繋げる。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費 14,430	交付対象 事業費 13,407	交付金 充当額 10,726	市町村 負担金 2,681	交付対象 外経費 1,023
<pre> graph LR A[宜野座村 13,407千円] --> B[委託料 13,407千円] B --> C[一般社団法人教育振興会 13,407千円] C --> D[対象外経費 10,726千円] C --> E[対象外経費 1,023千円] </pre> <p style="text-align: right;">(※習熟度別学習支援配置(5名) (英語、国語、数学、理科、社会))</p>					

資金の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者をプロポーザル方式により選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、人件費および管理費等を考慮し判断した結果、適正であると考えている。 ○生徒の学力向上を目的として支援員を配置しているため、目的に即し、必要だと判断した。委託料の支払いはお勤簿等を確認の上行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	幼稚園預かり保育事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(2)-ア	
担当部署名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	誰もが安心して子育てができる環境づくり		
事業内容	保護者が安心・安全に子どもを預けることがで、育児における負担感の軽減を図るため、村立幼稚園において預かり保育を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a)当初予算額	7,360	11,550	14,233	15,108	17,024
		(b)予算現額	9,080	11,550	11,942	15,108	17,839
		(c)増減額(b-a)	1,720	0	▲2,291	0	815
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		9,080	11,550	11,942	15,108	17,839
	B. 執行済額		8,488	10,474	11,942	13,076	16,297
	うち交付金充当額		6,790	7,920	9,553	10,460	13,038
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		93.5%	90.7%	100.0%	86.6%	91.4%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・内閣府の保育士等処遇改善臨時特例交付事業の実施に伴い、当該事業では対象外となっていた預かり保育担当者の処遇改善分を一括交付金にて対象経費とし、第1回変更にて815千円を増額した。 ・預かり保育担当者の無給休暇取得により、30千円を減額した。 ・預かり保育担当者を配置できなかった期間があったため、481千円を減額した。 ・対象外経費が発生したため、1,030千円を減額した。 					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	目標	預かり保育担当職員配置数 ・松田幼稚園 2名 ・宜野座幼稚園 3名 ・漢那幼稚園 2名	松田幼 2名 宜野座幼 2名 漢那幼 2名	松田幼 2名 宜野座幼 3名 漢那幼 2名	松田幼 2名 宜野座幼 2名 漢那幼 2名	松田幼 2名 宜野座幼 3名 漢那幼 2名	
実績		松田幼 2名 宜野座幼 2名 漢那幼 2名	松田幼 2名 宜野座幼 3名 漢那幼 2名	松田幼 2名 宜野座幼 2名 漢那幼 2名	松田幼 2名 宜野座幼 3名 漢那幼 2名		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育担当者7名を雇用し、松田幼稚園2名、宜野座幼稚園3名、漢那幼稚園2名を配置した。 ・担当者を7名配置できたことで、園児の安全確保や保育サービスの充実につながり、預かり保育を希望する79世帯全員を受け入れることができたため、受入率100%を達成できた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	目標	安心・安全に子どもを預けることがで、育児の負担感が軽減されたと感じたか(80%)を含め、対象となる幼児の保護者へのアンケートを行い、事業の在り方を検証する。	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
			実績		100%	100%	100%
	目標	()	()	()	()	()	
実績							
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・対象となる園児の保護者に対してアンケートを実施したところ、安心・安全に子どもを預けることができ、育児の負担感が軽減されたと回答した世帯の割合は100%となり目標を達成した。 ・通園する園児の世帯の内、約9割が共働き家庭で午後も就労しているため、担当者7名を配置できたことで保護者への午後の預かり先を提供でき、子育て世代の多様化するニーズに応えることができた。 						

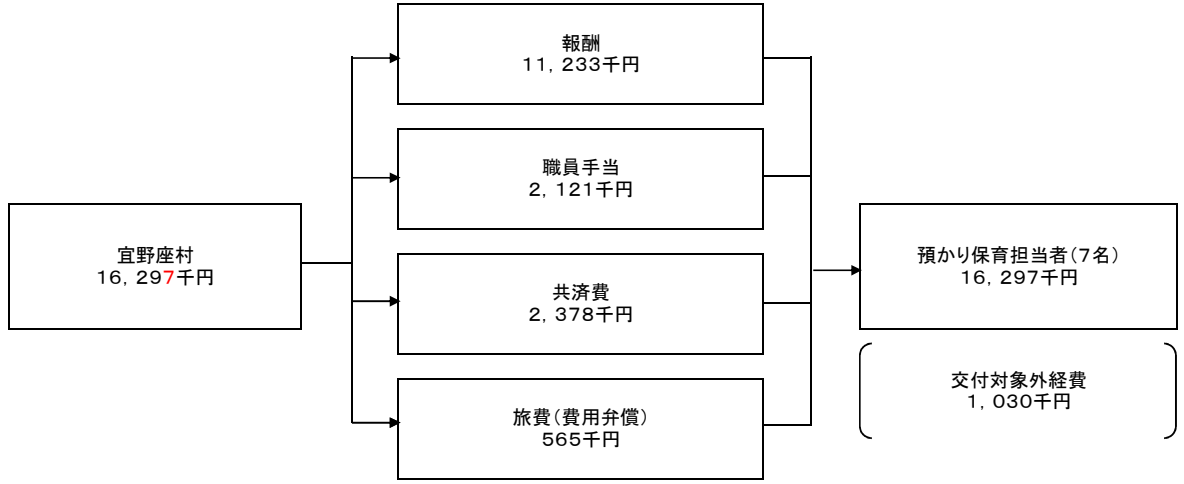
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 各園へ預かり保育担当者を配置できたことで、園児の安全確保や保護者と園児への柔軟な対応が可能となり、保護者の満足度100%に繋がった。 校務支援システムを使用し、アプリを通じた保護者連携がスムーズに行われるようになったことで、保護者の預かり保育に対する安心感につながった。 研修の受講により、担当者の保育に対する考えが統一されたため、協力してサービスを提供できるようになり、園の実態に応じた柔軟な保育を実施することができた。 園毎に利用者数や地域性の差異がある。 幼稚園のICT化が進む中、現在のパソコンスキルでは事務作業が滞る場面が増えた。 家庭の事業や本人の特性により、配慮が必要と思われる園児が複数いるため、預かり保育担当者が対応に苦慮している様子が見られる。 教育課程の時間と連携することで、園児の個別対応や今後の保育への取り組み、事故防止に対して、職員全員で積極的に取り組む姿勢が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、実態に応じた効果的なサービスを提供するため、専門家を招聘した研修の充実を図る。 園毎に利用者数や地域性の差異があるため、引き続き実態に応じた柔軟なサービスを提供し、保護者の満足度に繋げる。 引き続き、配慮が必要な園児を観察し、スムーズな就学に向けた職員間の連携を図る。 家庭の事情や本人の特性により配慮が必要と思われる園児が複数いるため、教育課程の時間の職員と連携し、保護者と園児に対して慎重且つ丁寧な対応を心掛ける必要がある。 教育課程の時間に勤務する職員と更なる連携を図る。 今後も幼稚園のICT化が進むことが予想されるため、パソコンスキルの向上に関する研修を実施し、円滑な事務作業へ繋げる。 現在行っている事務作業を見直し、事務作業の効率化を図る。

今後の取り組み方針

- 実態に応じた効果的なサービスを提供するため、引き続き専門家を招聘した研修を実施する。特に配慮が必要と思われる園児との関わり方や、他職員との連携に必要な教育課程の基礎知識に関する研修に取り組む。
- 充実したサービスを提供できるよう、引き続き担当者の困り感や日頃の保育について「共有できる場」を定期的に開催する。
- 配慮が必要と思われる園児に対し、園児の特性や家庭環境、保護者の困り感等を職員間で常に共有することで、園児がスムーズに就学できるよう連携体制を強化する。
- 事務作業の効率化を図るため、提出物の精査や簡略化を実施し、同時にパソコンスキルの向上に関する研修を実施する。
- 引き続き、校務支援システムの取扱いに関する研修を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,327	16,297	13,038	3,259	1,030



資金の流 れ、 点 検 、 費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○担当者の雇用については、地方公務員法第22条の2第1項第1号に基づいており、雇用は妥当である。 ○担当者の配置数については、宜野座村立幼稚園預かり保育に関する規則に基づき積算しており、適切な規模である。 ○費目、用途については、預かり保育に要するものであり、必要な物に限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村
------	------

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	有機の里宜野座村確立事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-キ 魅力と活力ある農山漁村地域の振興と脱炭素社会への貢献
担当部署	産業振興課	事業実施(予定)年度 令和4~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)
事業内容	有機の里宜野座村を目指し、沖縄県環境保全型農業推進協議会の認証を受けたエコファーマーの増加並びにエコ農産物の販売量の拡大を図るため、減農薬や、減化学肥料による環境保全型農業を推進する。			

効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)
--------	---

実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()
------	--

		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	11,431	11,354	12,361	13,249	8,942
	(b) 予算現額	11,306	11,252	12,260	13,249	7,153
	(c) 増減額(b-a)	▲ 125	▲ 102	▲ 101	0	▲ 1,789
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	11,306	11,252	12,260	13,249	7,153
	B. 執行済額	11,301	11,252	12,260	13,053	8,601
	うち交付金充当額	9,045	9,002	9,808	10,442	6,881
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	98.5%	120.2%
	予算の状況の説明	概ね計画どおりに事業を実施することができた。				

活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		①栽培指導回数(480回)	目標 (480回)	(480回)	(480回)	(480回)
	実績	561回	574回	581回	594回	
	②生産販売目標(116t)	目標 (135トン)	(116トン)	(116トン)	(116トン)	(116トン)
	実績	69トン	78トン	65トン	66.4トン	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 専門技術員(農業栽培指導員・土壌分析・肥料設計・エコファーマー認定指導員)を設置し営農指導及び販路の拡大に取り組んだ。 農業栽培指導技術員により、農家に対し栽培指導(土づくり、害虫防除方法、台風対策等)を実施し安定した農産物の生産につながった。 土壌分析・肥料設計・エコファーマー認定指導員により、エコファーマー認定取得のための技術指導や認定申請書作成の支援を行った。 農業栽培指導技術員による有機農法及びエコファーマー認定の栽培指導回数の目標480回に対して、581回の指導を行うことが出来た。しかし、新型コロナウイルスの影響で、島ラッキョウ・赤モーウイ・かぼちゃ・パインの注文が大幅に減少したことなどから販売目標の116トンを下回る65トンという結果となった。 					

成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
		エコファーマーの認定者数	目標 ()	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)
			実績	7名	0名	0名	
		エコ農産物販売目標	目標 ()	(116トン)	(116トン)	(116トン)	(110トン)
実績	78トン		65トン	66.4トン			
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 新規のエコファーマーの認定者は0名であり、目標の3名を達成することができなかった。 エコ農産物販売量については、前年度よりは13トン減少し目標の116トンに届かなかった。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(エコファーマーの認定者数) ・エコファーマー認証について3人の新規認定取得を目標とし、認定希望者や新規就農者等に認定取得の呼びかけをしたが、コロナの影響で取引量も落ち込みエコファーマー認証の取り組みが積極的ではなく希望者は0名であった。 (エコ農産物販売量) ・近年は天候、新型コロナウイルスの影響、連作障害等畑のコンディション不足が重なり農産物販売量は66.4トンと達成率にして約57%と目標数値を下回っている。	(エコファーマーの認定者数) ・エコファーマー認定者数は令和3年度までに30名を目標としていたが、平成24年度から令和4年度までの実績は41名となっており、目標を達成している。今年度は継続して認定取得者を確保していきたい。 (エコ農産物販売量) 栽培指導員の指導の元、連作障害等の課題は克服しつつある。また、販売市場や社会情勢も回復が見込まれており、生産者の意欲も向上しているため今後は販売量に関して回復が見込まれている。

今後の取り組み方針

(エコファーマーの認定者数)

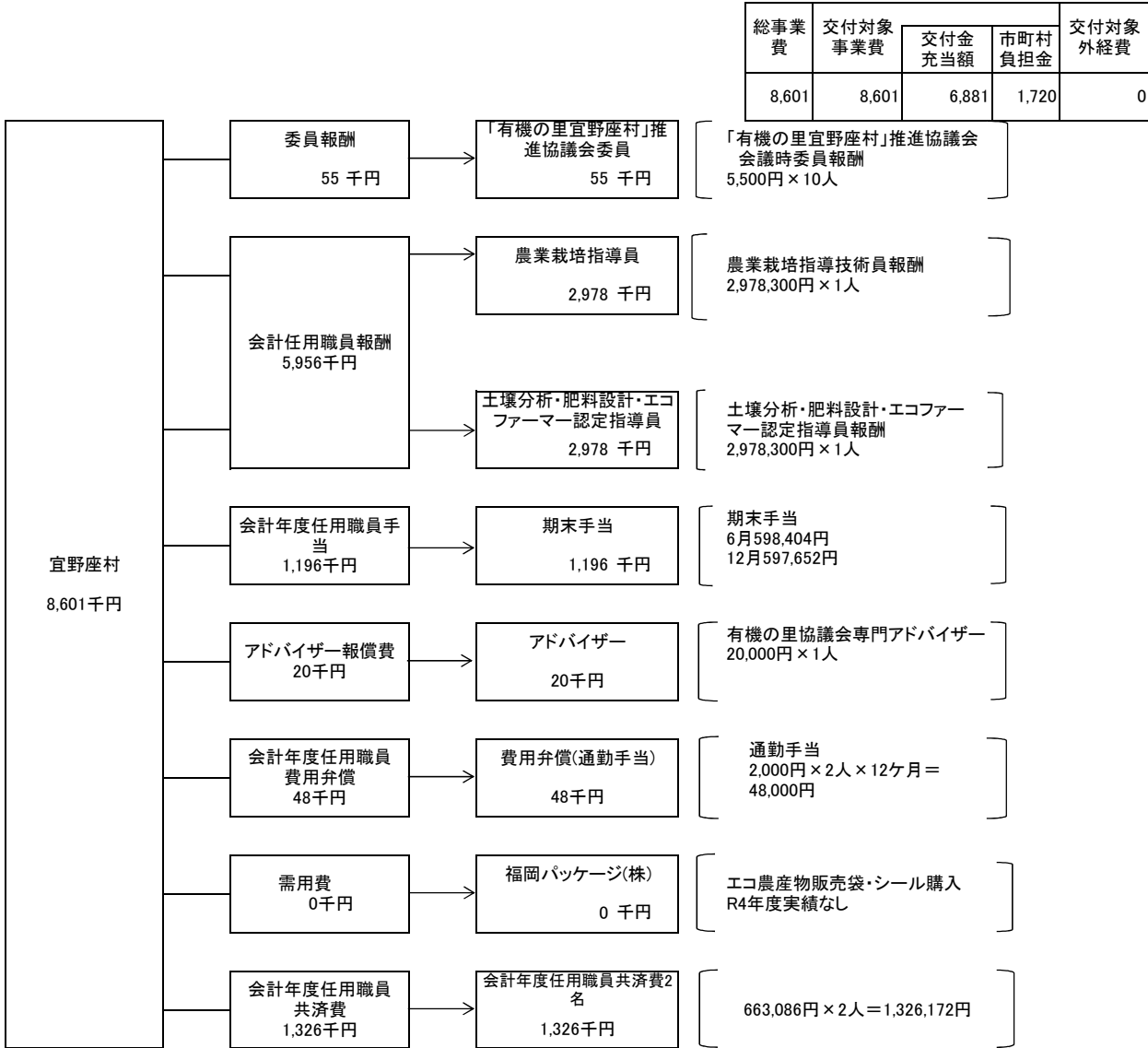
・村の特産品加工直売センターと連携し、直売センター内にてエコファーマー専用のブースを設け他農家との差別化を図り、生産農家にエコファーマー認証取得のメリットを周知し、認定取得希望者を募り栽培指導員と連携し、栽培指導と認定手続きの支援を行うことで認定取得につなげる。

(エコ農産物販売量)

・作物の種類については、取引先より需要のある作物の情報を得たうえで、試験的な栽培を行いながら、栽培環境が適していると判断した場合に生産拡大を行っていく。また、需要も踏まえ天候等環境要因の影響を受けにくい夏野菜の栽培を継続・検証しながら天候の影響が小さくなるよう、取り扱い品目を増やして安定的な販売量の確保に取り組む。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○協議会委員の選定については、農業関係機関の代表や地域の代表、行政機関の代表など多方面からの意見を集約できるよう選定しており、会計任用職員についても、営農指導の経験豊富な者・農業関連の専門的知識を有する者・販路開拓の経験を有するものを選定しているところから妥当であったと考える。エコファーマーラベル製作については見積を徴取し最低見積業者に発注しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委員報酬・会計任用職員報酬・農業経営アドバイザーの報償費の金額については宜野座村嘱託職員・報酬月額表に基づき積算しており、適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	さとうきび営農指導委託事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア	
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	令和4年～令和13年	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化		
事業内容	本村の基幹作物であるさとうきびの増産を図るため、営農指導員による管理作業や営農指導を行う。また、担い手を確保し、講習会を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,320	1,323	1,332	1,332	1,332
		(b)予算現額	1,320	1,323	1,332	1,332	1,332
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		1,320	1,323	1,332	1,332	1,332
	B. 執行済額		1320	1323	1331	1,331	1,331
	うち交付金充当額		1056	1058	1065	1,065	1,065
	次年度繰越額		-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	99.9%	99.9%	99.9%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容は全て実施しており、適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	営農指導による管理作業の指導・担い手を確保し、営農指導や講習会を実施する。		目標 (1名)	(1名)	(1名)	(1名)	
	・営農指導員配置1名		実績 1名	1名	1名	1名	
		目標 ()	()	()	()		
		実績					
達成状況説明		営農指導員1名を配置し、栽培農家134名(延べ348名)、新規栽培農家1名に対し指導を行った。営農指導は、農家や新規農家が積極的に栽培方法を聞いたり、会議にも参加し助言するなど、本村のさとうきび栽培に重要な役割を担っている。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	令和4年生産量 5,084t以上		目標 ()	(5,441t)	(5,084t)	(5,084t)	()
			実績	4,976t	5,348t	5,102t	
			目標 ()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明		令和4年度生産量の実績値は5,102tとなり、前年度より246t減収となった。4月から6月にかけての長雨や日照不足などの影響で思うように収量が伸びなかったが、目標収量を達成することができた。また、農家一人ひとりに対して営農指導することにより病害虫の対策や肥培管理などの作業を効率よく行えた結果、昨年同様、北部地区では生産量1位になることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>営農指導により適期から作業が遅れる農家が少なくなったが、農業者の高齢化等で管理不足の圃場が見受けられるほか、離農・田作物転用により栽培面積が減少している。</p>	<p>高齢農家に対しては、営農指導員による指導を徹底する。肥培管理作業等の遅れがあるので、適宜管理を徹底させる。また、栽培面積減少の理由として田作物転作等があり、さとうきび農家の後継者育成の向上・生産の反収増を図る。</p>
今後の取り組み方針		
<p>直近3年間の平均生産量は5,100tと安定して収量を確保できるようになってきている。令和5年度も適期管理作業等の指導を徹底し、さとうきび生産の反収増、担い手の育成・確保に取り組んでいく。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	1,331	1,331	1,065	266	0
<pre> graph LR A[宜野座村 1,331千円] --> B[委託料 1,331千円] B --> C[営農指導員] C --- D[さとうきび営農指導] </pre>					

資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託者と随意契約を締結しており、理由としては専門的知識を有し、経験年数や経歴等を考慮しても他に本業務を遂行できるものがないことから1者と随意契約を締結している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○宜野座村会計年度任用職員・報酬月額表及び賃金基準表を基に実施している。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の決定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	観光景観向上対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア	
担当部署名	村民生活課	事業実施(予定)年度	令和4~令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進 Ⅲ-10-(1)	
事業内容	観光地の景観向上を図るため、観光ルートのパトロールや不法投棄物の撤去を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,040	4,039	4,697	4,987	2,719
		(b) 予算現額	4,050	4,005	4,650	4,987	2,721
		(c) 増減額 (b-a)	10	▲ 34	▲ 47	0	2
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計 (b+d)	4,050	4,005	4,650	4,987	2,721
	B. 執行済額		4,049	4,005	4,650	4,985	2,721
	うち交付金充当額		3,231	3,204	3,719	3,987	2,176
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初予定した事業内容を計画通り実施できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	目標	パトロールの実施 不法投棄回収 粗大ゴミ解体	パトロールの実施 不法投棄回収 粗大ゴミ解体	パトロールの実施 不法投棄回収 粗大ゴミ解体 不法投棄防止看板の設置	パトロールの実施 不法投棄回収 粗大ゴミ解体 不法投棄防止看板の設置		
実績	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施 不法投棄防止看板の設置	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施 不法投棄防止看板の設置			
達成状況説明	監視・作業員配置1名を配置し、これまで不法投棄のあった場所の監視カメラによる監視、不法投棄防止看板の設置、観光ルートのパトロール、放置された不法投棄物の撤去を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	・観光地における不法投棄の減少10件/年	目標	()	(10件/年)	(10件/年)	(10件/年)	()
		実績		0件/年	0件/年	0件/年	
	【参考指標】 ・観光地ルートの景観向上(観光客から宜野座村の自然環境や景観向上・美しさ等をアンケート調査し、事業成果をとりまとめる。):満足度%	目標	()	(70%)	(70%)	(70%)	()
実績			未実施	88%	87%		
進捗状況説明	観光地における不法投棄件数は1年間で0件であり、目標値を達成した。 また、達成状況の客観的確認として、観光施設でのアンケート調査を実施し、目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>広大な自然環境を生かした着地型観光を推進する本村は、これまで自然景観を損ねる不法投棄物が多かったが、本事業の実施により、観光地における不法投棄が4年間(令和1~4年度)0件である。</p> <p>令和4年度は、監視カメラが届かない場所への不法投棄対策として、ダミーカメラ、注意喚起の看板の設置、パトロールの回数を増やした。</p>	<p>従来のパトロールのルート変更や時間帯を変える等改善を検討し、さらなる不法投棄の抑制を図る。</p> <p>また、各区に配属している環境監視員をはじめ、区長さんと住民と連携を図り、不法投棄を見かけたらすぐに連絡するよう促し、村民全体で、不法投棄に対する意識啓発をおこなう。</p>
今後の取り組み方針		
<p>不法投棄パトロールのルート変更や時間帯を変動し、効率的に不法投棄を監視・抑制し、不法投棄の減少を図り、着地型観光の推進につなげる。また、村委嘱の環境監視員だけでなく、その他地域住民の協力を得て、村民みんなが不法投棄防止に対する意識を高めるよう連携を継続して図っていく。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	2,721	2,721	2,176	545	0
宜野座村 2,721千円	報酬 1,853千円	(会計年度任用職員 1名 不法投パトロール、回収作業、粗大ごみ解体作業)			
	共済費 374千円				
	期末手当 401千円				
	費用弁償 24千円	(会計年度任用職員 1名)			
	需用費 69千円	(ベニヤ板・杭・手袋等。)			

資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・監視・作業員は、村広報などにより応募し、村内の地形等を熟知している方を選定しており、妥当である。</p> <p>・予算規模は、村の予算編成資料(会計年度任用職員報酬月額表)により積算しており、適正な規模であったと考える。</p> <p>・費目・使途は事業目的に即しており、消耗品も必要最小限のもので、妥当であったと考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	危険生物駆除捕獲事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア		
担当部署名	村民生活課	事業実施(予定)年度	令和4年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進 Ⅲ-10-(1)		
事業内容	観光客や修学旅行生等の安全を確保することを目的とし、ハブやハチ等の咬傷事故等を未然に防ぐため、捕獲器の設置や観光地のパトロールを実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	H30年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,750	3,750	4,277	4,512	4,491
		(b)予算現額	3,750	3,750	4,217	4,512	4,445
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲60	0	▲46
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	3,750	3,750	4,217	4,512	4,445
		B.執行済額	3,707	3,707	4,217	4,488	4,445
		うち交付金充当額	2,965	2,965	3,373	3,590	3,556
		次年度繰越額	-	-	-	-	-
		執行率(%) (B/A)	98.9%	98.9%	100.0%	99.5%	100.0%
	予算の状況の説明	ハブ捕獲機のメンテナンスが予定より少なかったため事業費を減額したが、当初予定した事業内容を計画通り実施できた					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	観光地パトロールの実施	目標	(12回/月)	(12回/月)	(12回/月)	(12回/月)	
		実績	12回/月	12回/月	12回/月	12回/月	
	ハブ捕獲器設置	目標	(150箇所)	(150箇所)	(150箇所)	(150箇所)	
		実績	128箇所設置	140箇所設置	119箇所設置	112箇所設置	
ハチ等の捕獲・駆除体制の整備	目標	捕獲・駆除0件 (専門員2人の配置)	捕獲・駆除0件 (専門員2人の配置)	捕獲・駆除0件 (専門員2人の配置)	捕獲・駆除0件 (専門員2人の配置)		
	実績	捕獲・駆除0件 専門員2人の配置	捕獲・駆除0件 専門員2人の配置	捕獲・駆除0件 専門員2人の配置	捕獲・駆除0件 専門員2人の配置		
達成状況説明	・観光地パトロールを1年間、月12回実施し、目標を達成した。またパトロールと合わせてハチ等がいらないか確認を行った。 ・村境界付近112箇所にハブ捕獲器を設置し、ヒメハブ2匹、アカマタ3匹の捕獲・駆除を行った。なお、目撃情報への対応状況や捕獲器の修理対応により結果的に、112箇所の設置となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	観光地におけるハブの咬傷被害件数:0件	目標	()	(0件)	(0件)	(0件)	()
		実績		0件	0件	0件	
進捗状況説明	今年度も観光地付近において咬傷被害が0件であり、目標は達成となった。なお、観光地におけるハブ・ハチ等への苦情は0件であった。今後も観光客が安心安全で観光できる環境を継続していく。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>捕獲については、目撃情報を基に設置場所を移動したことにより、ヒメハブ2匹、アカマタ3匹が捕獲された。</p> <p>捕獲場所においては、住宅地域、郊外関係なく捕獲されているが、重点的に対策しているエリア外での目撃や咬傷被害、捕獲情報が多々あるため、エリアを拡大して、観光地へのハブ等の危険生物が侵入するのを防ぐ必要がある。</p>	<p>公共工事や地域清掃などにより区画の整備が行われるとハブ等の目撃情報があるため、情報収集に努め、適宜パトロールや捕獲器設置エリアを見直し、効果的に捕獲・駆除ができるよう取り組む。</p>
今後の取り組み方針		
<p>今後も目撃情報を元にパトロールや捕獲器設置エリアを適宜見直し、効果的に捕獲し継続的に駆除することにより、拡散防止・人体被害を未然に防ぎ、観光客や修学旅行生の安心・安全確保につなげる。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,445</td> <td>4,445</td> <td>3,556</td> <td>889</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>			総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,445	4,445	3,556	889	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,445	4,445	3,556	889	0										

資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・作業員は、村広報などにより応募し、村内の地形等を熟知している方を選定しており、妥当である。</p> <p>・予算規模は、村の予算編成資料(会計年度任用職員報酬月額表)により積算しており、適正な規模であったと考える。</p> <p>・費目・使途は事業目的に即しており、消耗品も必要最小限のもので、妥当であったと考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○			

市町村名	宜野座村
------	------

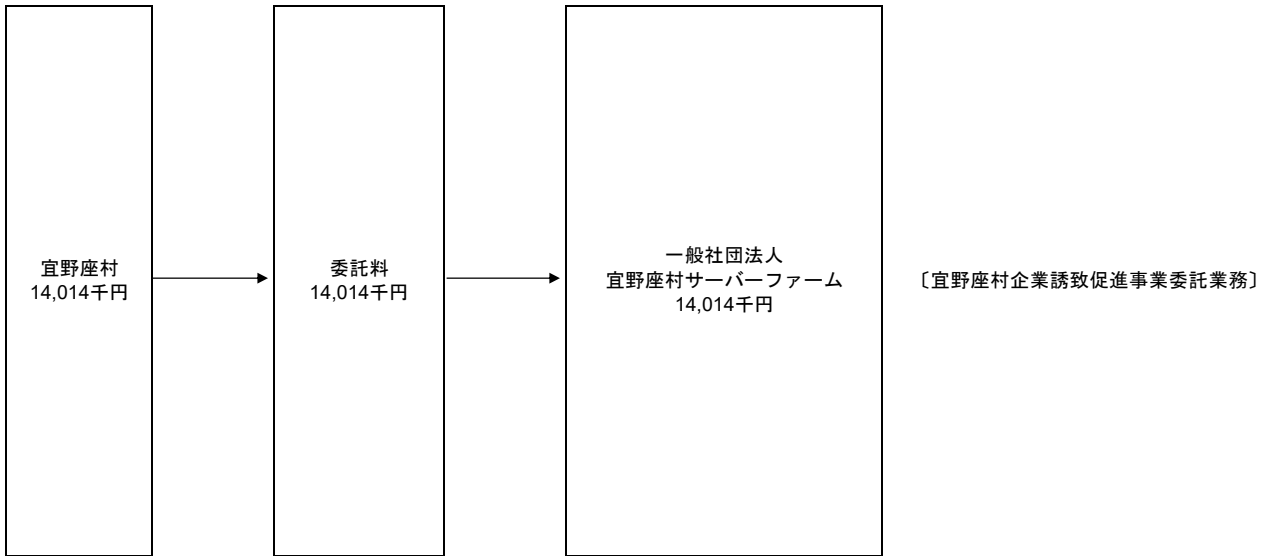
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	宜野座村企業誘致推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(3)-イ	
担当部署名	企画課	事業実施(予定)年度	平成28年～令和4年度	沖繩振興基本方針該当箇所	国際的な情報通信拠点施設の形成 Ⅲ-1-(2)		
事業内容	企業の誘致を図るため、県外ITイベントにおけるブース出展や情報系企業の招聘セミナーを実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	14,160	14,081	14,795	13,519	14,014
		(b)予算現額	14,160	14,081	11,495	13,519	14,014
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲3,300	0	0
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	14,160	14,081	11,495	13,519	14,014
		B.執行済額	14160	14081	11495	13519	14014
		うち交付金充当額	11328	11264	9196	10815	11211
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	事業計画通りに執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	招聘セミナーの実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	企業誘致ブースの出展	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外からIT関連企業を対象として、令和4年8月に本村へ招聘セミナーを実施した結果、11社15名を本村へ招聘することができた。 ・令和4年10月に幕張メッセで行われた「第13回Japan IT Week 秋」へ沖縄県・名護市と共同でブースを出展した結果、コロナ禍であった前年度と比べ大幅に来場者数が増え、201名の方と名刺交換が出来た。また、令和5年1月にインテックス大阪で行われた「第7回Japan IT Week 関西」では153枚の名刺を獲得、名護市民会館での「TSUNAGU CITY 2023 in NAGO」では148枚のアンケートを回収し、様々な方へ施設のPRが出来た。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	招聘セミナーの参加者数	目標	()	(15社/30名)	(10社/20名)	(10社/20名)	()
		実績		6社/9名	11社/18名	11社/15名	
	企業誘致ブース来場者数	目標	()	(200名)	(250名)	(200名)	()
		実績		6名	43名	502名	
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・招聘セミナーに関して、コロナ禍での通常開催(10社20名)を目標に行った。コロナ禍の影響で辞退者も出たが、関東や関西の参加者へ向け施設のPRが出来た。 ・企業誘致ブースについてもコロナ禍での開催となったが、前年度と比べ活気が戻っていることを実感した。今回初の試みとして沖縄県・名護市・宜野座村の3団体で共同ブースを出展し、ご来場いただいた201名の方々へ施設のPRが出来た。さらに、沖縄県が出展するイベントブースの一角へパネル等の展示やブース対応を行い、153名の方々へアピールを行った。名護市でのイベントでは県内外にお住まいの一般来場者へ向け施設に関するアンケート調査を行い、148名の方々へ認知度や課題調査を行った。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・招聘セミナー参加者数は新型コロナウイルスの影響により達成することが出来なかったが、企業訪問や施設視察受入を積極的に行い、令和5年4月に1社進出を予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・村へ進出企業獲得へ向けて、更なる広報普及活動を実施する。 ・新オフィスが令和3年10月より供用開始となり、現在10室中4室に入居しており、今後も更に力を入れて視察受入などを行い、PRを行う。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・本事業による接触企業に対するフォローアップ営業を強化する。 ・新オフィスやコワーキングスペースの利用促進のためのPRを行う。 ・働き方改革によるワーケーション推進に力を入れ、豊かな自然を活かしたアクティビティなど本村の強みをアピールし、時代の流れに沿った戦略的な企業誘致に取り組む。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
14,014	14,014	11,211	2,803	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、本村に特化した企業立地を推進する事業所となっており、本事業の目的を達成するために、委託事業者との随意契約は妥当であったと考えている。 ・予算規模については、人件費、旅費の費用については宜野座村嘱託職員・報酬月額表や旅費規程内であるため妥当であると考えます。 ・使途については事業目的達成の観点から必要なものであるか、額の確定時(検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村
------	------

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-②	国際交流事業(世界のギノザンチュの集い)	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-4-(2)-(ア)
担当部署名	企画課	事業実施(予定)年度	令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				交流基盤としてのウチナーネットワークの継承・発展
				Ⅲ-7-(1)

事業内容
 交流を通して各国宜野座村人会とのネットワークを強化及び継承させ、今後の自国において次世代を担う人材の育成、相互の拡大発展を目的とし、世界のギノザンチュの集い及び村内バスツアーを実施した。世界のギノザンチュの集いでは、新型コロナウイルスの影響を考慮し、オンラインを含むハイブリット方式で開催した。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	10,946				
	(b) 予算現額	5,312				
	(c) 増減額(b-a)	▲5,634	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0				
	A. 計(b+d)	5,312	0	0	0	0
	B. 執行済額	5,311				
	うち交付金充当額	4,249				
	次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	予算の状況の説明	計画においては新型コロナウイルスの影響等もあったが、補正しながら執行し、不用を生じなかった。				

活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況			
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
世界のギノザンチュの集い	目標	(実施)	()	()	()
	実績	実施			
村内バスツアー	目標	(実施)	()	()	()
	実績	実施			
達成状況説明	5年に1度の世界のウチナーンチュ大会に併せて、市町村事業「世界のギノザンチュの集い」を開催した。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止ため、オンラインによる映像配信で実施し、交流を通して各国宜野座村人会とのネットワークを強化及び継承させ、今後の自国において次世代を担う人材の育成や相互の拡大発展をさせることができた。 海外参加人数:現地参加者39名、オンライン参加者69名以上(69端末) バスツアー参加者:35名程度 YouTube配信当日閲覧者数:287名以上(287端末)				

成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
		海外参加者(オンラインを含む)を対象に、アンケートを実施し、交流を深めることができた、ルーツが沖縄であること再確認することができたとの回答を70%以上得る。	目標	()	(70%)	()
	実績	/	100%			/
	目標	()	()	()	()	()
	実績	/				/

進捗状況説明
 海外参加者(オンラインを含む)を対象に、アンケートを実施し、交流を深めることができたルーツが沖縄であること再確認することができたとの回答を70%以上得ることを目標としたが、アンケートの結果、世界のギノザンチュの集いへの現地参加者及びオンライン参加者の全員(100%)から「交流を深めることができた、ルーツが沖縄であること再確認することができた」との回答が得られた。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>【交流の促進・継承】</p> <p>○移民3世、4世に世代交代し、言葉の壁が大きくなっていく中で、世界のギノザンチュの集い等のイベントにおいて、多言語対応や若者の交流促進が必要である。</p> <p>○今回は新型コロナウイルスの影響により、ハイブリット開催としたが、次回以降もハイブリット方式を継続してほしいとの要望が多かった。</p>	<p>【交流の促進・継承】</p> <p>○多言語に対応するイベントを実施する。</p> <p>○オンライン配信の充実を図る。</p>

今後の取り組み方針

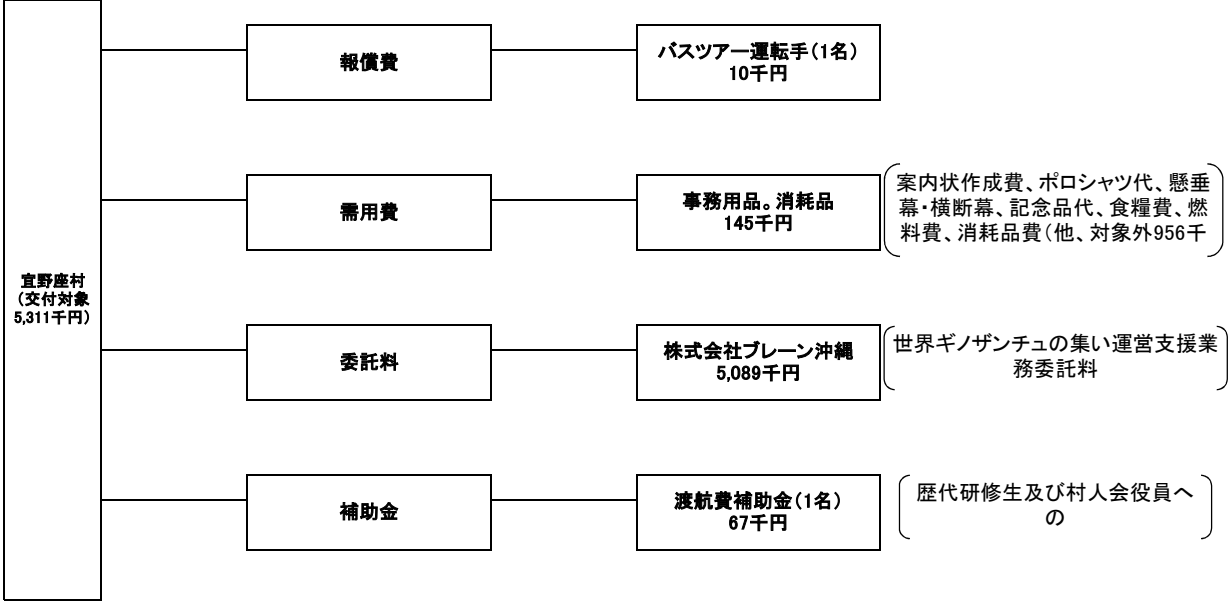
【交流の促進・継承】

○今回の世界ギノザンチュの集い及びバスツアーでは、村国際交流員1名の配置や村長及び実行委員長、村人会のあいさつ文及びバスツアーでの進行を事前に英訳し、参加者に配布を行う等、英語対応は十分に行われたと考えるが、その他の言語への対応が不十分だったことから、通訳や翻訳機なども含め多言語に対応する方法を検討する。

○原則としては、現地での参加を促進しつつも、オンライン配信を実施することにより、より多くの世界のウチナーンチュやギノザンチュと繋がれるようにする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
6,267	5,311	4,249	1,062	956

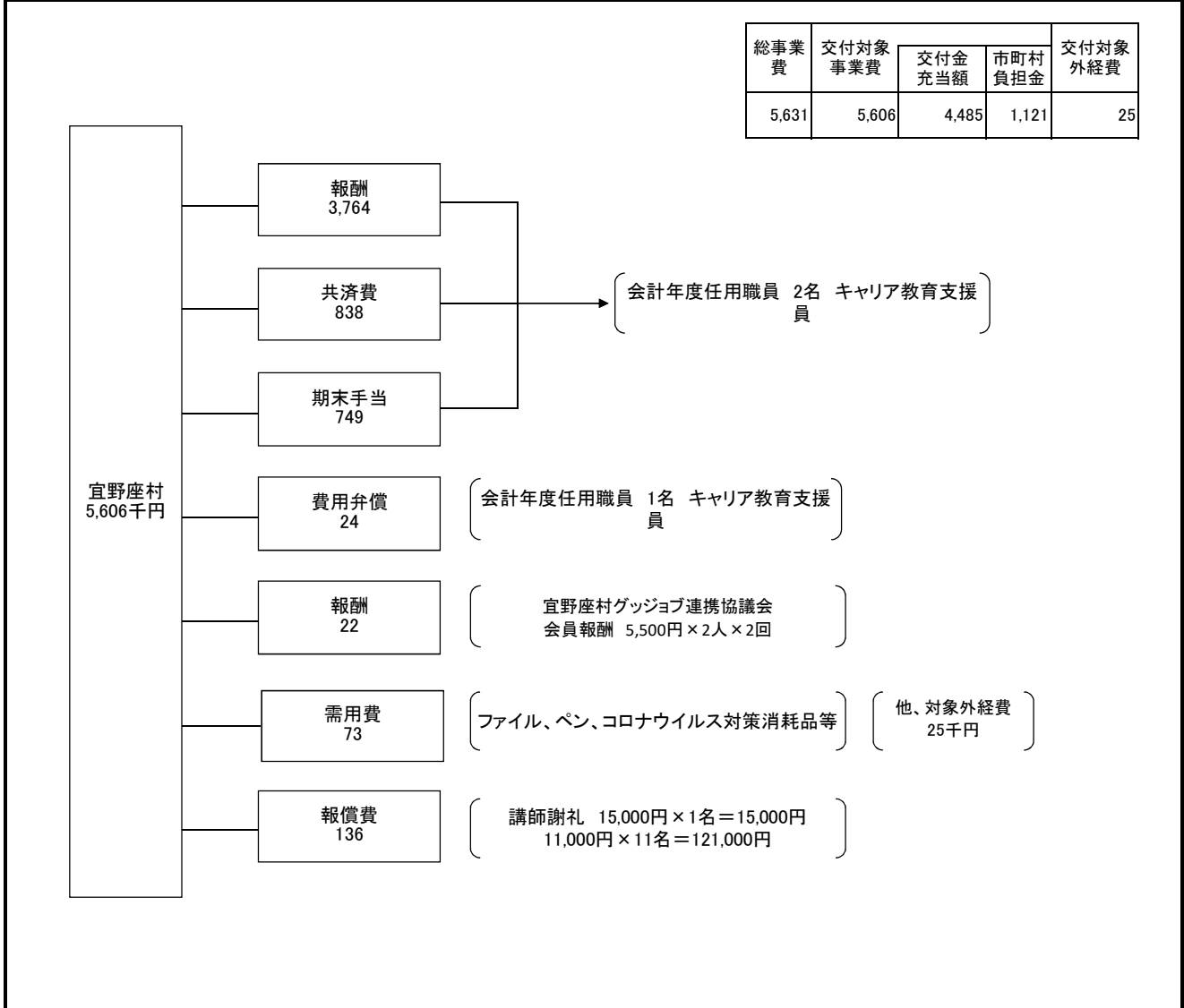


資金の流 れ、 費 目 ・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○受益者であるバス運転手や渡航費補助対象者については、要綱や規則に則り、支払いがされたものとする。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	小中高キャリア教育支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-ウ		
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	令和3年度～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	若年者の活躍推進		
事業内容	将来的な地域での雇用のミスマッチ解消や人材確保へつなげるため、村内小中高校生へのキャリア教育や総合的な学習の支援を産学官が連携して行い、児童生徒の就業意識の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,014	5,760			
		(b) 予算現額	6,014	5,760			
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		6,014	5,760	0	0	0
	B. 執行済額		5,233	5,606			
	うち交付金充当額		4,186	4,485			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		87.0%	97.3%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		概ね計画どおりに事業を実施することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	村内3小1中1高へのキャリア教育及び総合的な学習への支援	目標	(5校)	(5校)	()	()	
		実績	5校	5校			
	グッジョブ連携協議会の開催	目標	(2回)	(2回)	()	()	
		実績	2回	2回			
	周知広報の取組 (SNSや村広報誌、事業報告パネル展の実施)	目標	(6回)	(6回)	()	()	
実績		7回	9回				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・村内全ての小中高校において、キャリア教育及び総合的な学習への支援を行うことができた。 ・取り組み実施に当たり、感染症の影響を受け、代替案へ変更となる取り組みもあったが、目標や目的を変更することなく事業を実施することができた ・宜野座村グッジョブ連携協議会は2回開催することができ、協議会の目的や意識を共有し、産学官それぞれの立場から課題を共有することができた。 ・周知広報の取組は、保護者説明やパネル展の実施、村広報誌等を使い取り組むことができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	対象校の児童生徒へアンケートを行い、「就業意識が高まったか(80%以上)」を含め、本事業の在り方を検証する	目標	()	(80点以上)	(80点以上)	()	()
		実績		89%	85%		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	事業実施後アンケートを実施し、就業意識が向上したといえる項目で肯定的な意見が平均85%となり、目標の80%以上を達成することができた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(周知広報) 新型コロナウイルス感染拡大の影響が少しずつ緩和され、多少の取組の計画変更はあったが、すべての取組を行うことができた。その中でも周知広報の取組はパネル展の実施や保護者説明等が実施できた。	(周知広報) 周知広報の取組は今後も力を入れ、保護者の理解、地域からの協力者を増やせるよう継続していく。
	(グッジョブ連携協議会) グッジョブ連携協議会は計画通り開催することができ、産学官で現状や課題など情報共有することができた。	(グッジョブ連携協議会) グッジョブ連携協議会では、今後の社会や学校、地域の変化を産学官で理解し、課題解決に向けた取り組みについて熟議を重ねていく。
	(事業実施) 各学校事業のニーズが多岐にわたるため、専門的な知識を有する講師が必要となる。	(事業実施) 事業所へアンケート調査等を行い、講師の開拓を行う。
今後の取り組み方針		
<p>(周知広報) これまで通り保護者説明や村広報誌、SNS等の活用やパネル展を実施し周知広報を取り組む。</p> <p>(グッジョブ連携協議会) 計画通り協議会を開催し、協議会内で目的やそれぞれの役割を共有し、今後の取組についての熟議が円滑に行えるよう、協議会を運営していく。</p> <p>(事業実施) 村内事業所、村商工会、県のキャリアセンターを活用し、講師の開拓を行う。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・キャリア教育支援員は、書類選考及び面接により選定しており、妥当であると考え。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は事業内容にあった適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・会員報酬や講師謝礼の金額については、それぞれの規定に基づいて積算しており、適正な規模であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途は事業目的に即しており、消耗品も必要最小限のもので妥当であったと考え。